

## 外部評価委員会結果記録書

令和 4 年 1 0 月 1 8 日 作成

評価年月日	令和 4 年 8 月 1 9 日 (金)
評価の概要	<p><b>1 令和 3 年度 of 取組結果について</b></p> <p>電力については、電力会社の排出係数低下が温室効果ガス排出量の削減に寄与している。今後も、排出係数が低い事業者を積極的に活用していただきたい。</p> <p>電力について、空調や照明については一定の削減効果がみられるが、ポンプなどの動力系についても、効率のよいものへの更新など、状況を見ながら対策を考えていただきたい。</p> <p>省資源に関する項目のうち複写機用紙については、平成 3 0 年度をピークに削減傾向にある。紙が必要な場面もありペーパーレスにも限界があるところ、一定のシミュレーションが必要と考える。</p> <p>グリーン調達ガイドラインに基づく調達実績について、環境物品がないために通常製品を調達した量が一定数あるが、除外されたものが適切かどうか精査する必要がある。</p> <p><b>2 令和 4 年度 of 取組について</b></p> <p>県庁舎の耐震化工事が行われており、その進捗によりエネルギー使用量にも影響があるだろう。</p> <p><b>3 第 2 期岡山県クール・エコ・オフィス・プラン (仮称) について</b></p> <p>社会や暮らし、生活のレベルを維持しながら、温室効果ガス排出量を削減するためには、再生可能エネルギーに切り替えるなど使用するエネルギーの中身が重要であり、こうした温暖化防止に寄与する方法を、プラン策定の中で考えていただきたい。</p>

指定管理施設が対象に含まれることになるが、その取組がカギになる。しっかり指導してもらいたい。

ZEBについては、県として建築に係る一定の基準を作っておかないとうまくいかないと考える。

再生可能エネルギーの計算、太陽光発電を設置して売電した場合どう計算するかなど、検討しておく必要があると考える。

現プランの基準年度は冷夏暖冬で温室効果ガスの排出量は比較的少ないが、基準年度が2年遡ることになると排出量が多い年度となる。その差により、取組が緩むことがないようにお願いしたい。

県の率先行動として環境配慮活動を実践するプランであり、県民に県の取組や達成状況を見せていくことが重要である。県の取組と同じような取組を県民が実践できるという提案ができればより効果があると考えます。